

2011年2月4日(金)

入場料金:1,000円(学生500円)

旭川市民文化会館 小ホール

旭川市7条通9丁目50番地 TEL:0166-25-7331

第1回

10:00~13:00

第2回

14:00~17:00

第3回

18:00~21:00

プログラム内容(各回)

- ・開場 20分前
- ・映画上映 1時間45分
- ・休憩 約15分
- ・トークショー 約1時間
(伊勢監督、ゲスト1名)

すべての人に楽しんでもらえるよう
会場全体に「字幕表示」「解説放送」
などを実施する予定です。



平成21年度 文化庁映画賞 受賞作品
第34回 日本カトリック映画賞 受賞作品

子どもたちがあそこまで、
ちゃんとしなやかに立ち直って、ねえ…
人間は強く創ってあるんだ、
ポジティブに上手に経験を利用して
ほかの人にも影響を与えながら
生きていけるって、
とても力づけられますよね。

細谷亮太

(小児科医・聖路加国際病院副院長)

チケット販売(前売り)

「こども富貴堂」

旭川市7条8丁目買物公園

Tel: 0166-25-3169

(10:00-18:30 年中無休)

<http://www.fukido.co.jp/>

上映会の益金は、すべて難病の子どもたちの医療ケア付きキャンプ場
「そらぶちキッズキャンプ(北海道滝川市丸加高原)」に寄付されます。

伊勢真一演出作品

10年の歳月が、命の尊さ、
生きる意味をやわらかに問いかける。
「風のかたち」はどんなかたち?

風のかたち

— 小児がんと仲間たちの10年 —

ドキュメンタリー映画105分

◀「風のかたち」旭川上映会の開催趣旨▶

「映画の登場人物が発するメッセージを、できるだけ多くの人に伝えたい」「旭川でそらぶちキッズキャンプの支援の輪をつくりたい」「すべての人にやさしいまち旭川を目指し、映画を通じて市民意識を盛り上げていきたい」という趣旨に多くの賛同者(市民ボランティア)が集い、旭川上映実行委員会ができました。そして「1人でも多くの方に来場してもらいたい」「すべての人に楽しんでもらいたい」という思いから、手探りでユニバーサル上映(字幕表示、解説放送など)を目指すことにしました。このチラシをお読みいただいた皆様には、ご来場いただけるようお願いするとともに、この上映会のことを広くPRいただけるようお願い申し上げます。

「再生」

10年前の夏、私は小児がんと闘う仲間達の一団と三浦海岸で出逢いました。細谷亮太医師(小児科・聖路加国際病院副院長)がリーダーのひとりである、SMSサマーキャンプに撮影スタッフと共に参加したからです。そこには、病気を克服し、社会の小児がんに対する偏見や差別を跳ね返そうと目が子ども達がありました。

小児がんはもう、不治の病ではありません。現在、全国におよそ2万5千人いると言われる小児がん患者の10人のうち、7人から8人までもが治っているのです。医学の進歩は、20世紀後半から、小児がんを“治る病気”に変えたのです。恥ずかしいことに、私がそうした事実を知ったのも、キャンプに参加してからです。以来10年、「命を救ってもらったお返しのためには、困っている人や弱い人を助ける仕事をした…」と夢を語っていた少女は看護師になり、「子どもが欲しい…」と切実に吐露していた放射線治療体験者が無事、母親になる姿を記録することが出来ました。

「学校の先生になり、小児がんや難病のことを子どもたちに知って欲しい…」という願いを胸に他界してしまった仲間もいます。

カメラは子どもたちだけでなく、医療の現場で、ずっと子ども達を見守り続けてきた細谷亮太医師の10年間をも記録しました。

「子どもは死んじやいけない人たちだからね」カメラに語りかけたこの言葉こそが、映画「風のかたち」の立ち位置です。

10年間の歳月が語りかける、小児がんと闘う仲間達の生きる力…それは不断に蘇る命そのものの力ではないでしょうか。

時間をかけて、ひとりひとりの命を見続けることで見えてきた「再生」という希望が描かれます。

小児がん患者や体験者を、悲劇の主人公ではなく、「再生」のシンボルとして描いたこの物語は、命の尊さ、生きる意味を問ひかけ、心が病んだ時代としばしば言われる私達の社会に、希望をメッセージするに違いありません。

今、この作品は私にとって、社会にとって、必然であると確信します。

伊勢真一(かんとく)

伊勢真一

1949年東京都生まれ。「奈緒ちゃん」「びぐれっと」「ありがとう」「えんどこ」をはじめ、多くのヒューマンドキュメンタリーを製作。近年は若手の作品プロデュースも積極的に手がけている。日常をふんわりと映し出す映像の中に、生きることの素晴らしさが込められた独特の作風で知られる。

監修——細谷亮太 月本一郎 石本浩市
協力——聖路加国際病院 済生会横浜市東部病院こどもセンター
あけぼの小児クリニック 毎日新聞社
財団法人がんの子供を守る会
本橋由紀 渡辺輝子 中島晶子
近藤博子 樋口明子 稲塚彩子 横川めぐみ
キャンプに参加した子どもたち・ボランティア 清水晶子
撮影——石倉隆二 世良隆浩
撮影協力——内藤雅行 田辺司 東志津
照明——箕輪栄一
作曲・歌——宮米地サトウ
編曲——横内丙午
音響構成——渡辺丈彦
録音——井上久美子 永峯康弘
制作——米山靖 助川満
宣伝デザイン——森岡寛貴(ジオングラフィック)
絵——伊勢英子
題字——細谷亮太
製作——いせFILM、スマートムンストーン関連映画製作委員会
製作協力——ヒボコムコミュニケーションズ
演出——伊勢真一



芸術文化振興基金助成事業

「よく頑張ったな」って気がしますね本当に。この子たちって結構思いやりがあるでしょ。他人の気持ちができるしね。

それと、僕らが真似しなくちゃいけないくらいセルフコントロールが出来ているしね。

月本一郎(済生会横浜市東部病院こどもセンター)

辛い思いを経験して、それを克服して、いろんな人に世話になって、いろんな思いをして成長している訳ですよ。堂々と自分の病気も言ってね。

石本浩市(あけぼの小児クリニック院長)

風のかたち

企画 スマートムンストーン
伊勢真一演出作品

病気を体験した子どもたちが、
弱さを強さに変えて行く姿。
医師やボランティアたちが、
病気の子どものとかわかることで、
力を得て行く姿。
にんげんの生きる力、希望のようなもの…

「そらぶちキッズキャンプ」 <http://www.solaputi.jp/>
「外で遊びたい」それが夢だという子どもたちや家族のため、医療ケア付きのキャンプ場が日本で初めて北海道滝川市丸加高原に創られようとしています。テストキャンプに参加した子どもたちは、笑顔いっぱい仲間たちと思い出をつくり、生きるエネルギーを得ています。

主催:「風のかたち」旭川上映実行委員会
共催:公益財団法人そらぶちキッズキャンプ
旭川ウェルビーイング・コンソーシアム
後援:旭川市教育委員会、旭川市医師会、旭川市小児科医会
協力:こども富貴堂、市民ボランティアの皆様